

北見市地域公共交通会議における地域公共交通確保維持改善事業の概要

事業実施の目的・必要性

北見市は北海道の東部に位置するオホーツク圏最大の都市である。地域の公共交通は鉄道(JR)、路線バス、タクシーであるが、特に市民の移動手段となる路線バスは社会情勢の変化に伴い、年々利用者数が減少傾向にある。しかしながら、公共交通は日常生活の中で、重要な役割を担っており、超高齢社会を迎える本市での必要性はより一層高まってくるのが推測される。このことから、持続可能な公共交通の体制を構築することを目標に掲げ、地域間幹線系統と接続するフィーダー系統を組み合わせることによって生活交通ネットワークの構築を進めていく。

生活交通確保維持改善計画の目標

○夕陽ヶ丘線(小泉8号-西8号-小泉8号)

令和4年度の実績である1日あたりの乗車人数456人の維持をめざす。

○川東・若松地域コミュニティバス線

新型コロナウイルスの影響から回復傾向にあるため、1日あたりの乗車人数24人の維持を目指す。

○留辺蘂市街地コミュニティバス

1日あたりの乗車人数5人の維持を目指す。

令和6年度事業概要

○夕陽ヶ丘線(循環線:小泉8号-西8号-小泉8号)

・運行日数 365日 ・運行回数 平日及び土日祝日14回/日 計5,026回 ・運賃 市内均一210円(片道)

小泉8号を起点・終点とする循環線である。運行経路には、大型商業施設、医療施設、大学、高校など、市内主要施設を循環する路線として運行している。

○川東・若松地域コミュニティバス線(北見-川東・若松-北見)

・運行日 365日 ・運行回数 平日9回(往復)、休日8回(往復) 計3,160回 ・運賃 路線バス区間均一210円(片道) デマンド区間420円(片道)

北見バスターミナルを起点・終点とする路線バス区間とデマンドバス区間による運行を行っている。若松大橋から川東住宅街を廻り、北見老人ホームまでを路線バス区間とし、北見老人ホームから川東郊外及び若松地域を予約制のデマンドバス区間として運行している。

○留辺蘂市街地コミュニティバス(留辺蘂自治区)

・運行日数 226日 ・運行回数 平日2.6回(平均) 計641回 ・運賃 150円

留辺蘂市街地の商業施設を起点・終点とする循環線である。運行経路は商業施設・医療施設・総合支所などの主要施設を循環し、移動手段を持たない高齢者等の外出機会を促進する役割がある。また、駅や路線バスとの接続により、留辺蘂自治区内における効率的な交通体系を確立している。

地域公共交通の現況

- ・JR石北本線(北見駅、他9駅)
- ・北海道北見バス(株)(25路線)、
網走バス(株)(2路線)、市営バス(2路線)
北見北交ハイヤー(株)(1路線)
- ・スクールバス(13路線) ・タクシー(市内4事業者)

協議会開催状況

令和6年6月12日 令和6年度第1回会議 開催

- ・令和6年度公共交通利用促進策(案)について
- ・令和7年度地域間幹線系統確保維持地域計画について
- ・令和7年度地域内フィーダー系統確保維持改善計画について

令和7年1月14日 令和6年度第2回会議 書面開催

- ・令和6年度地域公共交通確保維持改善事業・事業評価について
- ・法定協議会の要綱改正について(福祉有償運送協議会統合)

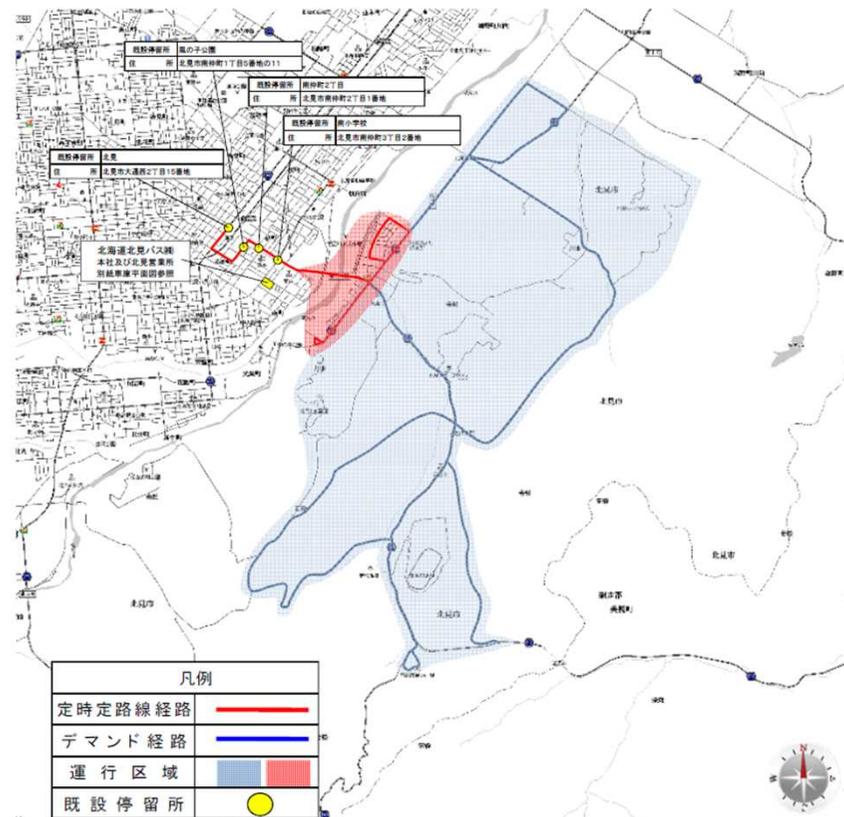
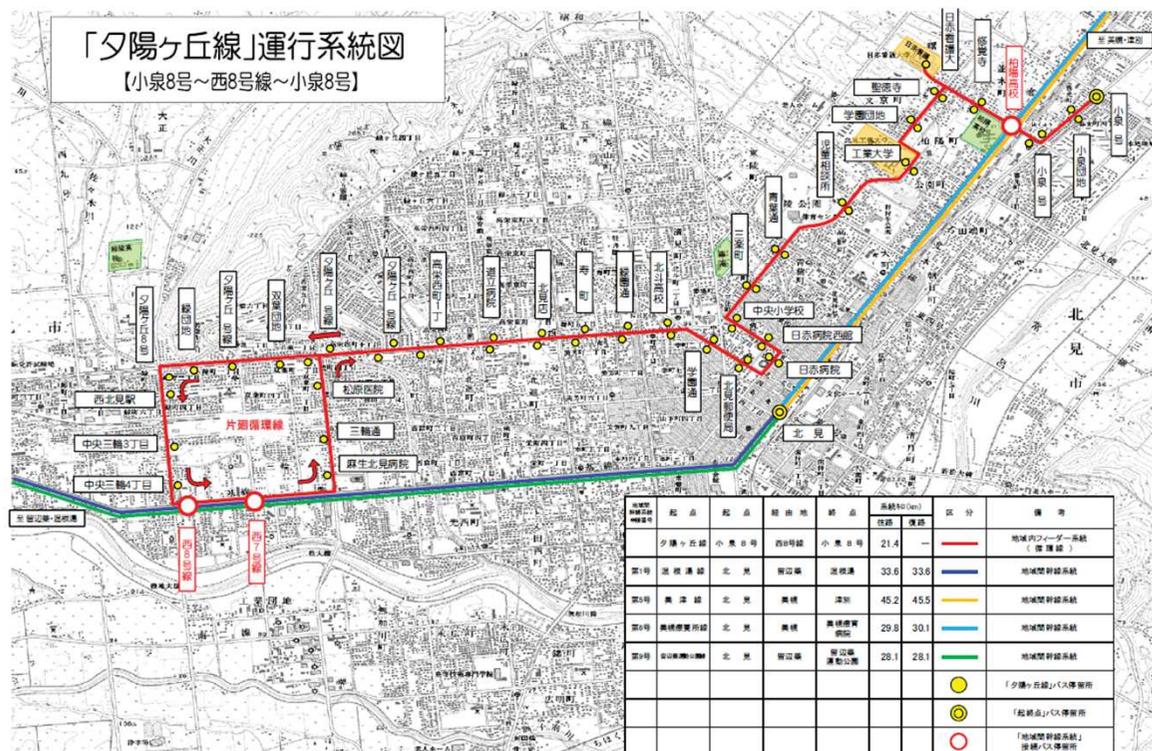
令和6年度事業の実施状況

1) プロセス、創意工夫

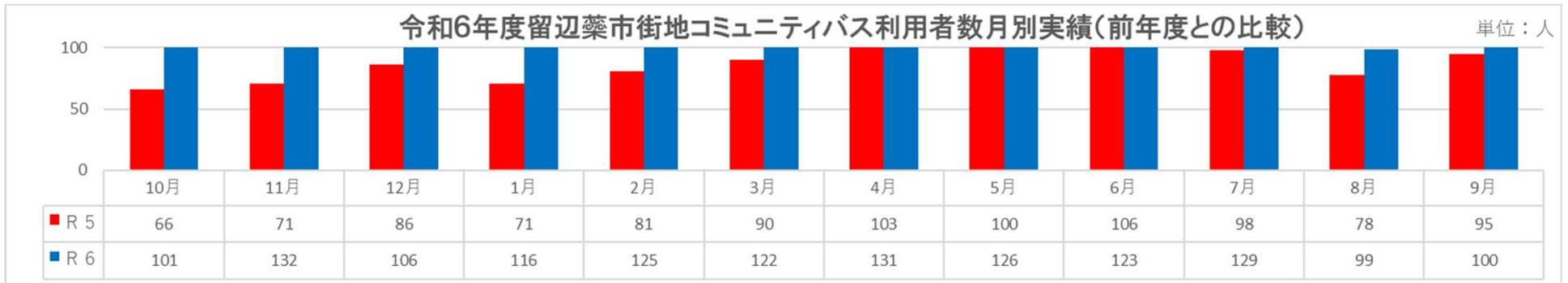
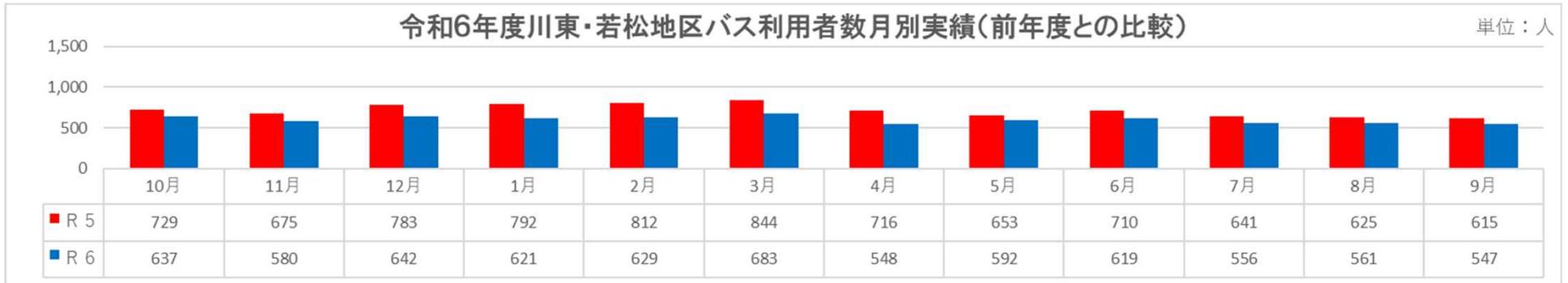
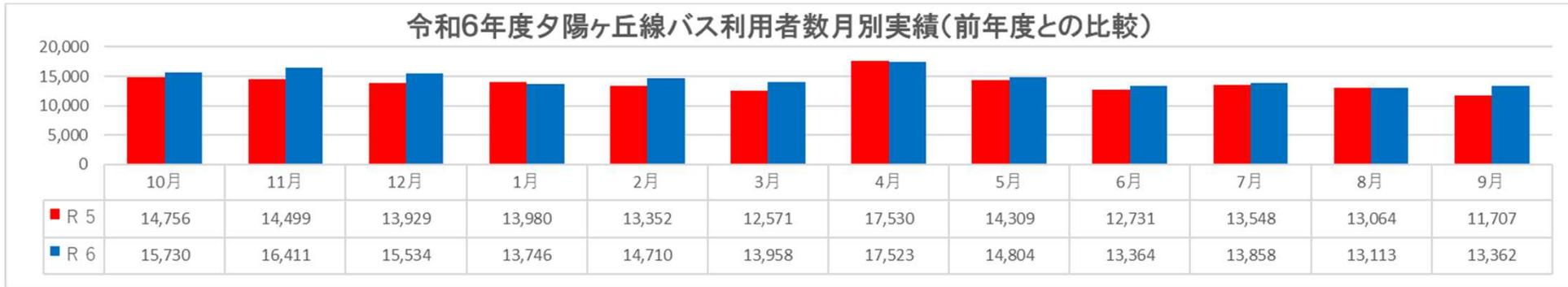
【夕陽ヶ丘線、川東・若松地域コミュニティバス線、留辺蘆市街地コミュニティバス】

- ・市内公共交通機関の利用促進リーフレットを作成し、転入手続きの窓口で配布した。
- ・公共交通を使うメリットを紹介したニュースレター「きたみ交通だより」を発行し、市内全戸に配布した。
- ・バス通学のきっかけづくりとして、市内高校生に路線バスICカード(3,000円相当)を配布した。
- ・「たんの太陽まつり」にて子ども向けの利用促進策を実施した。
- ・市内小学校と連携し、実際のバス車両を使った乗車体験をするなど、バスの乗り方教室を実施した。
- ・広報きたみにて公募し、北見市内在住の65歳以上の高齢者を対象としたバスの乗り方教室を実施した。

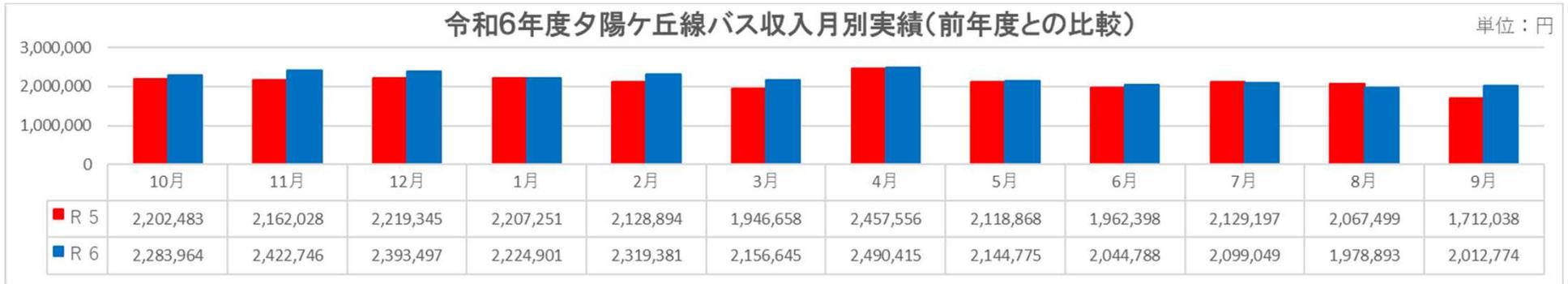
2) 運行系統（夕陽ヶ丘線、川東・若松地域コミュニティバス線）



3) 利用実績（夕陽ヶ丘線、川東・若松地域コミュニティバス線、留辺薬市街地コミュニティバス）



4) 収入実績（夕陽ヶ丘線、川東・若松地域コミュニティバス線、留辺薬市街地コミュニティバス）



5) 事業実施の適切性

○夕陽ヶ丘線

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

○川東・若松地域コミュニティバス線

事業が計画に位置づけられたとおり、適切に実施された。

○留辺薬市街地コミュニティバス

事業が計画に位置付けられたとおり、適切に実施された。

6) 目標・効果達成状況

○夕陽ヶ丘線

利用目標 456人/日に対し、実績は 483人/日と目標に達成することができた。新型コロナウイルス感染症の影響で減少していた利用が回復してきたこと、利便性の良さが利用者に定着してきたことが考えられる。

○川東・若松地域コミュニティバス線

利用目標 24人/日に対し、実績は 19.8人/日と、目標に達成することができなかった。定期利用者の減少や、依然とした利用控えが続いている状況が要因と考えられる。

○留辺薬市街地コミュニティバス

利用目標 5人/日に対し、実績は6.2人/日と目標に達成することができた。
予約受付時間の要件緩和などにより、利用者増加につながったと考えられる。

7) 事業の今後の改善点

○夕陽ヶ丘線

計画に基づき、継続して効果的な取組を実施する。

○川東・若松地域コミュニティバス線

実態把握とともに、運行ダイヤ・経路等を再考する余地があるか、有識者の意見を踏まえて検討する。

○留辺薬市街地コミュニティバス

計画に基づき、継続して効果的な取組を実施する。
また、利便性向上に向けた検討や乗り方教室の実施により利用者増加を図る。

8) 地方運輸局等における二次評価結果

- ・自己評価のとおり、事業は適切に実施されている。
- ・川東・若松地域コミュニティバス線の目標を達成することができなかったが、今後も地域公共交通計画に基づき、利用促進策の取組を継続することを期待する。
- ・持続可能な公共交通を維持する観点から、収支率といった事業効率の改善につながる目標を設定することもご検討いただきたい。